

「吉見町地域福祉計画・地域福祉活動計画（素案）」に対するパブリックコメント
の実施結果について

1. 実施時期平成26年1月10日（金）から平成26年2月10日（月）まで
2. 意見の件数10件
3. 意見提出者数2名
4. 意見の概要

No	項目	意見の概要	町・社会福祉協議会の考え方
1	第1章 4 計画の期間 第5章 (2) 計画の進捗 及び評価	計画の進捗および評価は、各実施項目により異なると思うが全て5年後では、金・時間を使い切り評価しても懸隔終了で終わってしまう。この5か年計画は実施項目毎に、毎年度ごとに評価基準を作成し評価してこそ、反省と修正が翌年可能になり、人・物・金を無駄にしない方法と考える。	計画の進捗管理は、「吉見町地域福祉合同推進会議（仮称）」を設置し、毎年度ごとに進捗状況の確認や評価を行うことを検討しています。
2	第4章 施策と 活動の展開	・各活動項目は活動のタイムスケジュールは良いと思うが、町と社協の連携方法が具体的理解できなかった。表現等を具体的に何をして連携するかを記入したら良いと考える。（実施しながら検討するのか？）	第1章・3計画の位置づけ・○地域福祉計画と地域福祉活動計画の連携に示すように、町（公）と社会福祉協議会（民）とでは、それぞれ福祉に取り組む役割が異なっておりますが、計画を一体的に策定することにより地域福祉の考え方や方向性について連携を図っています。また、計画推進に当たっての個別の事業につきましては、事業実施の段階で、連携方法等について検討したうえで取り組んでまいります。

3		<p>・人材確保のための資金集めは、ほかに良い方法はないのか？</p> <p>例) 支え合い等のサービス料金を多少(100円/h等..)高くして、資金をプールし人材確保の講習会等や参加者の意識付に使用できないのか？</p>	<p>社協事業の財源は会費や補助金、受託金、利用料などですが、経営努力や工夫は重要でありご提案は大変参考となります。ささえあいサービス事業につきましては、サポーター会員や利用会員、商工会の参画・協力のもとに推進しており、ご提案を含め総合的に勘案し、よりよい運営を検討してまいります。</p>
4	全体として	<p>とてもよくできているので感心しましたが、いざという時のための具体性がほしいと思います。その点で要望・意見の部分もあると思いますのでご了承ください。</p>	<p>地域福祉計画・地域福祉活動計画につきましては、計画期間を5年間とする地域福祉に関する総合的な計画です。個別の事業につきましては、この計画に則したものになるよう推進してまいります。</p>
5	P 22 (地区懇談会の現状)	<p>高齢者やこどもが遊べる公園などの場所の充実。(サロンなどに来られない人の交流の場として)</p> <p>交通弱者と「近所に医者がない」に対して。巡回バスのデマンド方式の検討と、救急車のより早い対応の対策。</p>	<p>「高齢者やこどもが遊べる公園などの場所の充実」につきましては、第4章・基本目標1・基本施策Ⅲ・②地域交流拠点の充実を掲げています。ご意見は、計画推進の参考とさせていただきます。</p> <p>地区懇談会でいただいた「交通の便が悪い」や「近所に医者がない」というご意見に対しましては第4章・基本目標3・基本施策Ⅳ・①ささえあいサービス事業・ファミリーサポート事業の充実に掲げている、「ささえあいサポート事業」での対応を考えております。</p>
6	P 28	<p>地域での福祉教育の一環として、高齢者サロンに余裕教室の活用検討。</p> <p>多様な人材育成は急務である。ボランティアは自分のためでもあり、楽しくもあるこ</p>	<p>「余裕教室の活用」につきましては、第4章・基本目標1・基本施策Ⅲ・②地域交流拠点の充実を、また、「交流会計画」につきましては、第4章・基本目標1・基本施策Ⅱ・①民生委員・児</p>

		とを、交流の中で伝える交流会計画を。	童委員など地域福祉活動の担い手の確保に掲げています。ご意見につきましては、計画推進の参考とさせていただきます。
7	P 30	社協のボランティア育成計画を評価したいが、ボランティア保険は社協負担が望ましいのではないか。人材育成の立場からも検討してほしい。	ボランティア活動保険については、契約形態として「本制度は、ボランティア個人またはボランティアグループなどが加入申込者となり、ボランティア個人を被保険者として全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約」となっております。ボランティアの原則である「自主性」を尊重する面もあり、保険については任意加入とさせていただきます。
8	P 32	サロン間の交流活動を実施し、お互い良い点を学ぶ。	各サロンの今後の活動に資するため、情報交換などを含めた交流会を25年度末に開催します。26年度以降も定期的で開催し、サロン間で様々な交流ができるように図ります。
9	P 33	誰もが参加しやすい居場所づくりに関して。無料あるいは低価格で参加できるサロンのために運営に「公助」を。多少の有償ボランティア費用も検討してほしい。学校余裕教室や空き家、空き保育園など、有効活用の検討を。歳末助け合い、赤い羽根募金の検討を。	サロン運営やボランティア活動に係る財源につきましては、第4章・基本目標2・基本施策I・②地域福祉活動の財源の確保に掲げています。サロン運営等に対する公助につきましては、運営方法や活動内容等を踏まえ補助の必要性について検討してまいります。
10	P 20	災害時に関して。大雪で実感したが、近所の助け合いは大切。同時に民生委員、地域福祉コーディネーターへ、要支援者をきめ細かに把握する指導、研修を望みたい。	災害などの緊急時の支援体制につきましては第4章・基本目標3・基本施策I・①避難行動要支援者の支援体制の強化に掲げています。災害発生時には地域内での支援活動が重要です。民生委員、地域福祉コーディネータ

			一はもとより、災害ボランティアの育成に取り組むなど、災害などの緊急時に強い地域づくりを進めます。
--	--	--	--